

八幡山徹底解剖

2013年10月20日(日)
明治大学政治経済学部ゼミナール発表会

後藤ゼミ第6期生：伊谷燎・稲垣海聖・牛原寛章・大平真衣・鈴木快彰・多田直人・戸邊優貴美・長野麻耶・長谷川奈央・林悟・日野雅晃

はじめに

私たち後藤ゼミは、不思議なことに体育会学生がゼミ員の半数を占めており、その多くが八幡山グラウンドで活動している。しかし、八幡山グラウンドは一般学生にとってもあまり認知されていないため、八幡山グラウンドの現状を明らかにし、より良い姿を展望することを目的とした。

その中でも、一般的に有名であり、後藤ゼミにも所属している学生がいることから、特にラグビー部と競走部に着目した。

1 明治大学体育会について

1-1 体育会のはじまり

明治大学体育会のはじまりは1905(明治38)年である。その時に、剣道、端艇、硬式庭球、柔道、相撲の5つの部が結成された。

各部の設立年代には、2つの波がある。第1期は自治意識高揚を背景とし、上記5部に続き競走(1907年)、弓道(1908年)、野球(1910年)が発足した。第2期は1922(大正11)年を中心とし、水泳(1919年)、サッカー(1921年)、ラグビー・ホッケー・山岳(1922年)、ボクシング・バスケットボール(1924年)、スキー・スケート・馬術(1925年)が発足した。この第2時期の要因としては、日本の産業化、大正デモクラシー等の影響による学生自治意識の高揚、目的の多彩化、国際化、軍強化による統制強化が挙げられる。

その後も、年々数が増加し、現在では合計で45の部がある。

表1 現在の体育会

ジャンル	部名
アウトドア	山岳, ローバースカウト, ワンダーフォーゲル
ウィンター	スキー, スケート
格闘技・武道	剣道, 柔道, 相撲, 合気道, 空手, 弓道, 拳法, 少林寺拳法, フェンシング, ボクシング, レスリング
球技	硬式庭球, アメリカンフットボール, ゴルフ, サッカー, 硬式野球, 準硬式野球, ソフトテニス, 卓球, バスケットボール, バドミントン, バレーボール, ハンドボール, ホッケー, ラグビー
マリン	ボートセーリング, ヨット
その他	アーチェリー, ウエイトリフティング, 競走, 航空, 自転車, 自動車, 射撃, 水泳, 体操, 馬術, 端艇
出版	明大スポーツ新聞
応援団	応援団(吹奏楽, バトン・チアリーディング)

1-2 指定強化部について

1980年代から90年代にかけて、ラグビー部の好成績に沸いた時代は、国立競技場での早明戦の切符が手に入らず、徹夜で並んだ人も多くいたほどの熱狂ぶりであった。硬式野球部も毎シーズンのように提灯行列(優勝パレード)が繰り広げられた時代があった。競走部も東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)に1920(大正9)年の第1回大会から出場し、1949(昭和24)年までに7回の優勝を誇る強豪校であった。

しかし、その後 2000 年頃において、ラグビー部は 1998 年を最後に関東大学対抗戦の優勝から遠ざかり、硬式野球部も 1998 年東京六大学野球春季リーグ戦を最後に優勝から遠ざかっていた。さらに競走部も、1990 年から箱根駅伝予選会敗退が続いていた。この結果に対し、これらの部の輝かしい活躍の時代を知る多くの明治大学関係者などから、復活を望む声があがり、それと共に大学へのスポーツ強化の要請が高まった。

そこで明治大学は、2003 年度頃から大学全体で体育会のバックアップを強化することを決定した。2004 年度からは体育会全運動部に強化活動費の助成を実施している。また、2009 年度から「スポーツ A0 入学試験」と「公募制スポーツ特別入学試験」を一本化し、新たに「スポーツ特別入学試験」を実施することにより、入試制度面からも体育会の更なる強化を目指している。

強化活動費助成の中でも、大学側から特別に手厚い支援を受ける「指定強化部」というものがある。指定強化部に認定されると、助成金の増加や設備・練習環境の整備など、それぞれの部の要望に合った重点的な補強がなされる。

2003 年に特に多方面から復活の要望が高かった競走、ラグビー、硬式野球の 3 部が指定強化部となり、新グラウンド・合宿所が建設された。結果、ラグビー部は 2012 年に関東大学対抗戦で 14 年ぶりに優勝、硬式野球部は 2004 年に東京六大学野球春季リーグ戦において 6 年ぶりの優勝、競走部は箱根駅伝 2005 年大会で 13 年ぶりに本選出場を果たすなどの成果を挙げている。

2010 年には新たにサッカー、柔道、卓球、馬術、スケートの 5 つの部が指定強化部に認定され、今後の目覚ましい活躍に期待が寄せられている。

1-3 ラグビー部・競走部について

指定強化部 8 つの中でも、ラグビー早明戦と箱根駅伝というビッグイベントを有するラグビー部と競走部について調べた。

ラグビー部の創部は 1922 (大正 11) 年である。現在は、選手 94 名、マネージャー 7 名 (男子 1 名、女子 6 名) の計 101 名で活動している。主な戦績は、早明戦で 36 勝 50 敗 2 分である。スポンサーにはミズノ株式会社がついており、練習着やユニフォーム、シューズなどが支給されている。近年の卒業生の主な就職先としては、サントリー、東京ガス、キャノン、中国電力、トヨタ自動車などが挙げられる。

競走部の創部は 1907 (明治 40) 年である。現在は選手 73 名 (男子 71 名、女子 2 名)、マネージャー 10 名 (男子 2 名、女子 8 名) の計 83 名で活動している。主な戦績は、箱根駅伝に全 89 回中 55 回出場し、7 回の優勝を飾っている。スポンサーにはラグビー部と同じくミズノ株式会社がついている。近年の卒業生の主な就職先としては、旭化成、大阪ガス、中国電力、肥後銀行、コニカミノルタなどが挙げられる。

表 2 ラグビー部・競走部の基本情報

	ラグビー部	競走部
創部年	1922 年	1907 年
部員数 (2013 年 10 月 現在)	101 名	83 名
戦績	日本選手権：優勝 1 回 準優勝 9 回 全国大学選手権：優勝 12 回 準優勝 9 回 関東大学対抗戦：優勝 14 回 準優勝 12 回 早明戦：36 勝 50 敗 2 分	箱根駅伝：55 回出場 (全 89 回中) 7 回優勝 出雲駅伝：4 回出場 (全 24 回中) 全日本大学駅伝：6 回出場 (全 44 回中)
スポンサー	ミズノ株式会社	ミズノ株式会社
近年の主な就職先	サントリー、東京ガス、キャノン、中国電力、トヨタ自動車	旭化成、大阪ガス、中国電力、肥後銀行、コニカミノルタ

現在この 2 つの部の練習場・合宿所はともに八幡山グラウンドにあり、日々練習に励ん

でいる。

八幡山グラウンドは、ラグビー部、競走部だけでなく、合計で 9 つの部（ラグビー、競走、アメリカンフットボール、ホッケー、アーチェリー、サッカー、スケート[アイスホッケー]、バスケットボール、ハンドボール）が集まる明治大学最大のグラウンドであり、明治大学体育会の中核ともいえる場所となっている。

2 八幡山について

2-1 フィールドワークの実施

八幡山の実態を知るために私たちは実際に八幡山のフィールドワークを行った。八幡山駅は京王線明大前駅から各駅停車で約 10 分のところに位置した駅である。駅の周辺に都立病院があり、周辺は閑静な住宅地に囲まれている。交通の面ではすぐ近くに首都高や環状八号線が通っており、非常に交通の便が良い場所である。



図 1 京王線八幡山駅



図 2 八幡山周辺

八幡山駅から10分ほど歩いたところに、八幡山グラウンドはある。入場するためにはまず管理棟に寄って入場許可をもらう。



図3 八幡山グラウンド管理棟

次に示すのは八幡山グラウンドのマップである。この八幡山グラウンドは、2003年に明治大学体育会の主要な部が使用できるようにと400メートルの全天候型トラックを有する陸上競技場、サッカー場、ラグビー場、アメリカンフットボール場、ホッケー場、アーチェリー場、および第一合宿所、第二合宿所といった構成で作られた。敷地面積は、陸上競技場とサッカー場が合わせて約9,300㎡、ラグビー場も約9,300㎡、アメリカンフットボール場が約6,200㎡、ホッケー場が約6,150㎡、アーチェリー場が約4,400㎡あり、全体で約48,000㎡となっている。これは東京ドームと同じくらいか、むしろ少し広いくらいの面積である。



図4 八幡山グラウンドマップ

次の写真はラグビー部の練習風景である。グラウンドの周りに家がたくさんあるのが見てうかがえるが、細い道路を一本挟むとすぐ住宅街が広がっている。日々の練習において騒音や環境の問題は必然的に起こってくるものなので、八幡山グラウンドは周辺住民の方々の協力が必要不可欠である。図6に示した写真はスクラムというプレーの写真である。



図5 ラグビー部練習風景



図6 スクラム練習風景

図 7 に示したのはサッカーグラウンドを内設した陸上競技用のトラックである。トラックは全天候に適應した作りとなっており、サッカーグラウンドは 2006 年に砂のグラウンドから人工芝グラウンドへ改装された。サッカーグラウンドと同時にアメリカンフットボール場も人工芝のグラウンドに改装されたが、これは近隣住宅への砂埃の飛散を抑制し、環境を改善するためである。



図 7 八幡山グラウンド陸上競技場トラック

図 8 は競走部の部員が練習している姿である。部員たちは練習時、思い思いのウェアを着用しているが、大会や公式試合のときは先ほど紹介したようにメインスポンサーであるミズノのウェアを着用する。



図 8 競走部練習風景（写真の選手は左から大六野秀畝選手，有村優樹選手）

図9は第二合宿所であり、ラグビー部、ホッケー部、ハンドボール部、バスケットボール部、自転車部の学生がここで生活している。手前に写っている道路を挟んですぐの場所には日本大学の体育会生用の学生寮がある。この第二合宿所の北側に、競走部、スケート部、アメリカンフットボール部の学生が生活する第一合宿所も存在する。



図9 明治大学八幡山第二合宿所

八幡山グラウンドに隣接した日本大学のグラウンドから、学生たちが八幡山グラウンドに練習に来ることもある。これは日本大学陸上競技部の部員たちが日本大学のグラウンドを使用できない時期に、練習のため一時的に八幡山グラウンドを使用している様子である。この時トラックの反対側では明治大学の学生が練習に励んでいたが、両校の交流は特に見られなかった。



図10 他大学生の八幡山グラウンド使用風景

2-2 インタビュー

ここで私たちは実際に八幡山グラウンドを使用しているラグビー部と競走部の現役選手にインタビューを行った。

●ラグビー部インタビュー

取材：後藤ゼミ 6 期生 牛原寛章

<インタビュー対象選手>

圓生正義

明治大学政治経済学部政治学科 4 年

出身高校 常翔学園高校（大阪府）

2013 年度明治大学ラグビー部主将



図 11 圓生正義選手

牛原：八幡山グラウンドに使用していて満足している点や不満の点はありますか？

圓生：ナイター設備がない。八幡山グラウンドは近くに住宅があるためナイター練習ができず早朝練習をしなければならない。

牛原：チームの自己分析や強みやカラーはなんですか？

圓生：仲のいい 4 年生を中心にチーム作りを進めている。試合メンバーは下級生が多く、下級生が上級生に遠慮しているのが欠点。

牛原：明治大学体育会について思うことはなんですか？

圓生：各部が結果を残して明治大学を活気づけるために活動しなければならない。あまり学校に行かない人、学校に行ったときにでかい顔しているのはダメだと思う。一般生の応援がなくなってしまう。

牛原：明治に入って良かったと思う点は何ですか？

圓生：後藤先生に出会えたことです。体育会のラグビー部だけでなく、他部のたくさんの人と出会えたことです。

牛原：ラグビー部の OB についてはどのように感じていますか？

圓生：在学生の為により良い環境で活動できるように援助していただいて、すごく助かっています。

<インタビュー対象選手>

大六野秀敏

明治大学政治経済学部地域行政学科 3 年

出身高校 鹿児島城西高校（鹿児島県）

2012 年春，2013 年春 2 年連続で箱根駅伝に出走



図 12 大六野秀敏選手

林： 八幡山グラウンドの設備自体についてはどういう感想を持っているか聞かせてほしいんだけど，どうかな？

大六野：トラック自体の質は悪くないし 6 レーンのトラック設備は走りやすい。サッカー場，アメフト場，ラグビー場が人工芝設備だから芝を走りたいとき走れるのもすごくありがたい。八幡山グラウンドの設備に関する不満は正直ほとんどないかな。すごく良い環境で練習にしっかり取り組んでいる。

林：次に，八幡山グラウンドの立地についてはどう思う？

大六野：大学（和泉キャンパス）には自転車でいける距離だし，駅も歩いていける距離だからすごく良い立地だと思う。ただ，近いとは言っても雨の日には少しつらいかなと思ってしまうけれど。アクセスの面に関しては大きな不満はないが，コンビニがデイリーヤマザキしかないのは個人的にすごく残念。他のコンビニ（ローソン，ファミリーマートなど）は少し遠いからね。やっぱスポーツをしているからそういうところはどうしても気になってしまうね。

林：少し八幡山の話からは離れることになるんだけど，明治大学競走部のチームカラーについては大六野自身どう思っている？

大六野：ここ数年ですごく層が厚くなっているから，誰か怪我人が出てもそう簡単に崩れないチームになった。だから，約 3 ヶ月間かけて戦う 3 大駅伝も今年こそしっかり戦っていけるかなと思う。チーム内の選手の雰囲気もすごく和気あいあいとしているしそれでいてやるときはやるといったメリハリのあるチーム。チーム内競争も激しくなってきたし，チーム力もすごく上がっている最中でまだまだこれから上がっていけるチームだと思う。

林：じゃあ，他の体育会についてはどういうふうにも思っている？

大六野：同じ寮の他の体育会は練習時間の違いもあるし，寮の規則の違いもあるから正直なところ不便もある。具体的には，夜が騒がしいと言った点かな。でも，他の種

目の選手と仲良くなれるといった良い面もちろんあるし自分たちも迷惑をかけていることもあるだろうからお互い様と思ってその辺りは割り切って生活している。

林：じゃあ最後に、明治大学に入ってよかったと思うことについて正直な気持ちを聞かせてほしいんだけど、どう？

大六野：スポーツ推薦入学者だけど、一般入試学生の人たちも分け隔てなく話しかけてくれるし仲良くしてくれる。駅伝の時期になるとすごく応援もしてくれる。何よりも、スポーツに理解のある大学という風潮がすごく嬉しい。OBの方々の明治へのこだわりの強さには時々驚かされることもあるけど、でもそれも含めて自分も大学のために頑張ろうと思っている。同じ学生であれOBであれ、支援してくれることや応援してもらえることには心から感謝しているし、明治で競技が出来てよかったと思う。明治に入ってよかった。

2-3 フィールドワークとインタビューから明らかになったこと

- 5つのグラウンドと各部の寮が揃っている
- キャンパスや都心とのアクセスも良い
- ×付帯施設が乏しい
- ×周辺にスーパーやコンビニが少ない
- ×選手間や地域住民との交流スペースが少ない

2-4 改善点

以上のことから、私たちはこの八幡山グラウンドをよりよい施設にするために3つの改善点があると考えます。

① 運動施設以外の付帯施設が乏しい点

ここでいう付帯施設とはシャワールームや観客席、ウェイティングスペースのことで、付帯施設の充実には選手だけでなく、応援してくれる観客の増加にもつながると考えられる。

② スーパーやコンビニが少ない点

住宅街に囲まれているにも関わらず徒歩圏内で食料品を買う場所がデイリーヤマザキしかない。選手にとって食生活は体調管理をするうえで重要であり、自分で食事を用意するとどうしても栄養などが偏りがちになってしまうというのが現状である。

③ 選手間・OBOG・地域住民との交流が少ない点

他大学の選手が練習や試合に来ることもあるが交流スペースが設けられておらず、懇親会や歓送迎会などには食堂や駐車場を使わざるを得ないという現状である。

2-5 クラブハウス型明大マートの提案

これらのことを踏まえて、私たちは八幡山グラウンドに新たにクラブハウス型明大マートを設置することを提案する。クラブハウス型、といった提案の背景として、以下の理由が挙げられる。

○文部科学省による「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業」の実施

政府の施策として、多世代がスポーツを通して触れ合える地域密着型の施設の設置が推奨されている。住民一人ひとりがそれぞれスポーツを気軽に楽しめる施設を作り、学校やスポーツ団体、企業などが協力して日常生活の中に定着させていくことを目的としている。

○Jリーグのクラブの事例

実際上記の施設作りに着手しているクラブもある。

「地域社会と一体となったクラブづくり（社会貢献活動を含む）を行い、サッカーをはじめとするスポーツの普及および振興に努めなければならない」（Jリーグ規約第21条）とあるように、競技の枠を超えたスポーツ施設の存在が重要視されてきている。また、専門

家である福島大学の黒須充教授は『クラブの存在はスポーツ参加の機会提供だけでなく、健康増進、雇用につながる場の提供、青少年の社会教育の面でも重要な役割を果たしている』と述べている。

以上のことから、クラブハウス型明大マートの設置を提案する。

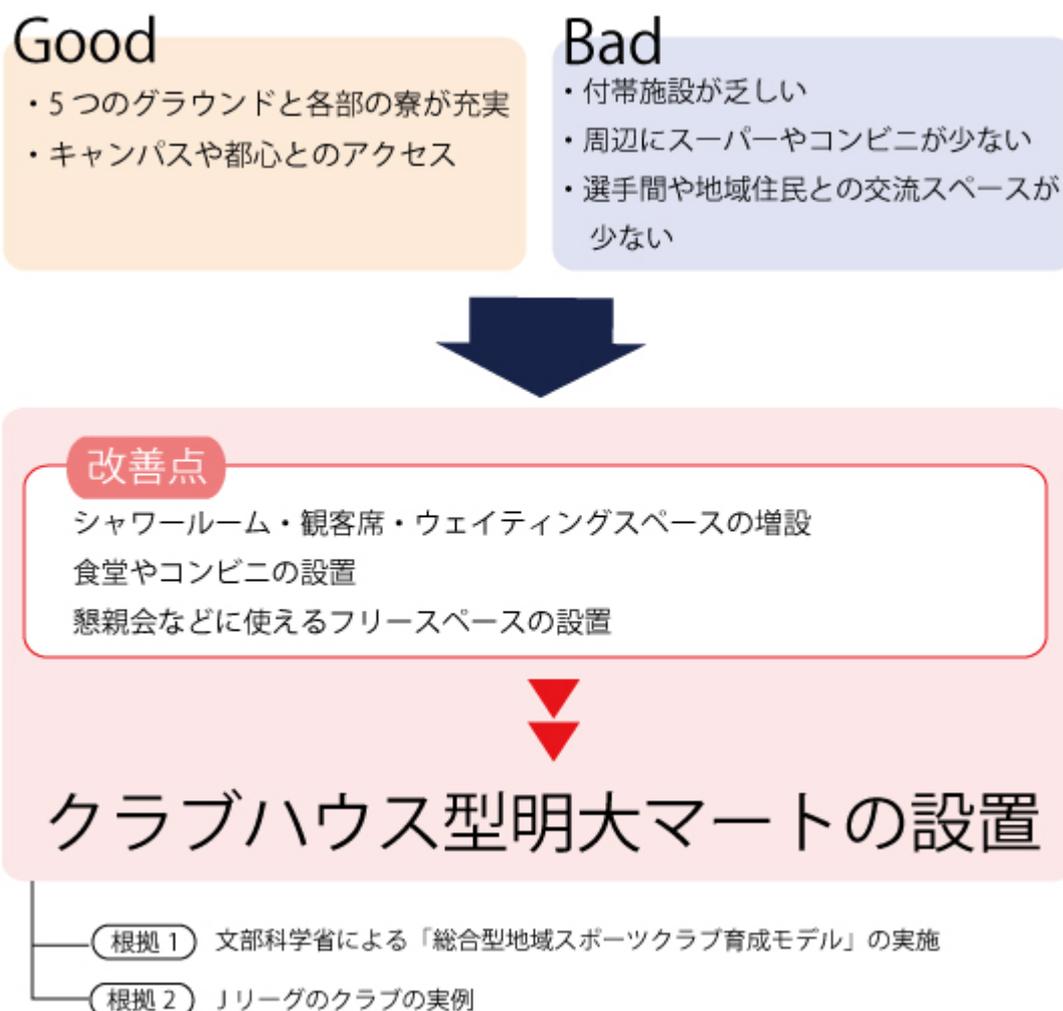


図13 クラブハウス型明大マート設置理由イメージ

3 結論

3-1 建設場所

まず、建設場所については、ラグビー部の合宿所が以前にあった土地に建設を想定している。このラグビー部合宿所跡地を選んだ理由はラグビー部、競走部を含む練習グラウンドから近く、環状8号線からのアクセスが良いということである。また八幡山は住宅密集地域で空き地が少ないにも関わらず、明治大学は土地をテニスコート約4面分保有しているため、そこでこの土地を有効に活用することが望ましいと考えた。



図 14 ラグビー部合宿所看板
旧寮時代から使用されているもの。
現在の合宿所は 2003 年に新築される。



図 15 旧八幡山グラウンド
1999 年撮影。
かつては黒土が覆っていた。

3-2 明大マート設置の意義 ～商品展開～

明大マート設置の意義を商品展開の視点から考察した。八幡山グラウンドの近くに建設するので、他の明大マートとは違った商品展開をすることがより重要となってくる。具体的には顧客の主体となる体育会学生のニーズに即した商品を販売することであり、アイシング剤・テーピング・包帯などのスポーツ関係品、バナナ・滋養強壮ドリンク・栄養バランスのとれた弁当などといった食料品である。このような商品展開により体育会学生の集客を図る。さらに、八幡山でなければ買えない体育会限定グッズを販売することも重要である。ラグビー部と競走部に限定せず、サッカー部など八幡山で活動する部活動の限定グッズの販売を提案する。そこで各部に対応しためいじろうグッズ、各部の記念タオル、Tシャツなどを販売することでOBの方々や地域の方々、他大学の選手などに立ち寄ってもらうことが狙いである。明大マートは和泉キャンパス、駿河台キャンパス、生田キャンパス、中野キャンパス、調布キャンパス（明治大学附属明治高等学校）に店舗がある。これら店舗と同様に多彩な商品を販売することで地域住民にとって近い存在となる。

「体育会のニーズに即した商品展開を行うこと」、「八幡山体育会限定グッズ」、「多彩な商品展開」を軸に販売を行うことによって、現役学生と地域の方々双方の集客を促し、明大マート八幡山店が地域と八幡山体育会の関係性を深めていくこととなり、地域とより密着することができる。



図 16 明大マーケット（和泉校舎）

駿河台，生田，中野，附属校のある調布全てのキャンパスで営業している。
八幡山にも明大マーケットの開店を目指す。



図 17 オリジナルグッズ

マスコットキャラクターめいじろうを用いた商品展開の一例。
このような八幡山グラウンドオリジナルグッズ開発を試みる。

3-3 多目的ラウンジの設置

次に，多目的ラウンジの設置に関する説明をする。

先ほどクラブハウスの説明があったような経緯で，八幡山明大マーケットには約 100 人程度を収容することのできる「多目的ラウンジ」を設置する。このラウンジの用途は主に二つある。

一つ目は，このラウンジを各部の OB 会や他大学との懇親会などといった体育会の行事の際に使用する，ミーティングホールとしての使い方である。これにより，現在は広い場所を確保できないために，開催に不便を感じているラグビー部の北島祭や競走部の歓送迎会など，各部の行事をよりよい環境で行うことができるようになる。

二つ目は，一般の方々への開放である。つまり地域への貢献としての役割である。体育会が使用していない時間帯などに限られてはしまうが，地域の方のコミュニケーションの場を提供することによって，「明治大学の体育会が八幡山にいる」ということの利点を近隣の方々に実感していただくと同時に，地域の活性化を目指すことができる。

すなわちこのラウンジは，明治大学体育会と近隣地域住民にとって，双方の「多目的」を実現するものなのである。



図 18 多目的ラウンジイメージ

会食，会議といった様々な使用目的を満たしうるようなスペース。

3-4 クラブハウス宿泊施設としての利用

この施設は先ほど述べた明大マートや多目的ラウンジの他に，宿泊施設も完備する。まずこれによって，慢性的な練習後のシャワー，更衣室不足を解消することができる。そして，他大学の選手は練習試合や公式戦の際に八幡山に宿泊し，万全の態勢で試合に臨むことが可能となる。また，この施設の設置は，八幡山に出向いてくれる相手選手に対するメリットだけではなく，コンディションの良い選手と戦うことができるという点で，明治の選手にとってもメリットを生む。さらに，利便性の向上により，今まで実現しなかった地方大学のチームとの試合はもちろん，現在はあまり行われていない八幡山での合同練習も行われるようになるだろう。

明治大学の附属校の選手にもメリットがある。附属校の選手が合宿や練習の際にこの施設を活用することができれば，大学と附属校の一体感は増し，明治スポーツ全体のレベルアップに繋がるだろう。



図 19 宿泊施設イメージ

相部屋にすることで収容人数を多くし，また宿泊者間のコミュニケーションも密になる。写真はバックパッカー用の簡易宿泊所。



図 20 シャワー室イメージ

現在抱えているシャワー室・更衣室不足の解決を論む。
写真はトレーニングジムのシャワー室。

おわりに

私たちは八幡山グラウンドが明治大学体育会の中核とも呼べる場所であることから、フィールドワークを通じて八幡山の実態を考察し、その「強さ」を実感した。しかし明治大学体育会が更なる発展をしていくために、私たちは練習に直結するグラウンド等の施設の充実だけでなく、選手にとっての利便性や、外部との交流に視点を置いた施設の必要性に着目し、クラブハウス型明大マートの提言をした。海外などに多く見られる総合型スポーツクラブを、体育会らしく、八幡山らしく変化させ設置することによって、体育会選手の競技力向上を目指す。それによって明治大学全体が盛り上がり、大学の力を高める。それだけでなく、地域に貢献し、近隣との交流を作ることにより、明治大学体育会が八幡山という地域を盛り上げていけると考えている。

東京オリンピックの開催が7年後の2020年に決定したことにより、これから先、社会のスポーツに対する関心は高まり、それに伴ってスポーツが社会に与える影響はますます大きくなるだろう。スポーツのあり方は様々だが、その中でも膨大な時間と活気を持つ学生スポーツだからこそ、競技活動を通して地域社会に貢献していくことができるのではないだろうか。私たちは今回の研究で体育会の「強さ」を実感したからこそ、学生スポーツの力に期待していきたいと考えている。

参考文献・URL

- 明治大学 <http://www.meiji.ac.jp/> (2013.10.27 閲覧)
- 明治大学体育会競走部公式ウェブサイト <http://www.meiji-kyoso.com/> (2013.10.27 閲覧)
- 明治大学ラグビー部公式ホームページ <http://www.meijirugby.jp/> (2013.10.27 閲覧)
- 明大スポーツWEB <http://www.meispo.net/> (2013.10.27 閲覧)
- 東京六大学野球連盟歴代優勝校～神宮への道～
univbbl.web.fc2.com/kanto/tokyo6/history.html (2013.10.30 閲覧)
- 明治大学百年史編纂委員会 (1992)『明治大学百年史 第三巻 通史編 I』 学校法人明治大学 p.562
- 和田政雄・浅野慶三・佐藤喜勇 (1988)『明治大学体育会ラグビー部部史 (1923～1988)』
明治大学体育会ラグビー部
- 明治大学体育会競走部百周年記念誌編集委員会 (2007)『明治大学体育会競走部百年史』明治大学紫交会
文部科学省ホームページ
<http://www.mext.go.jp/> (2013.10.28 閲覧)
- 青島設計-AOSHIMA ARCHITECTS &ENGINEERS INC.-
<http://www.aoshimas.co.jp/index.html> (2013.10.28 閲覧)
- Jリーグ公式サイト：百年構想
<http://www.j-league.or.jp/100year/> (2013.10.28 閲覧)

図出典

- 図 1 長谷川奈央撮影 (2013.7.18)
- 図 2 長谷川奈央撮影 (2013.7.18)
- 図 3 長谷川奈央撮影 (2013.7.18)
- 図 4 長谷川奈央撮影 (2013.7.18)
- 図 5 長野麻耶撮影
- 図 6 長野麻耶撮影
- 図 7 長野麻耶撮影
- 図 8 長野麻耶撮影
- 図 9 長野麻耶撮影
- 図 10 長野麻耶撮影
- 図 11 明大スポーツ新聞部 HP より (2013.12.12 閲覧)
- 図 12 明大スポーツ新聞部 HP より (2013.12.12 閲覧)
- 図 13 長野麻耶作成
- 図 14 明治大学ラグビー部 HP (2013.10.17)
- 図 15 無趣味なページ <http://homepage3.nifty.com/wtrdh23/index.html> (2013.10.17 閲覧)
- 図 16 Panoramio-Photos of the World <http://www.panoramio.com> (2013.10.17 閲覧)
- 図 17 神田経済新聞 <http://kanda.keizai.biz/> (2013.10.17 閲覧)
- 図 18 北海道看護専門学校 <http://www.hokkaido-kango.ac.jp/school> (2013.10.17 閲覧)
- 図 19 Travel - Telegraph <http://www.telegraph.co.uk/travel/> (2013.10.17 閲覧)
- 図 20 フィットネスクラブ・スポーツクラブ【ティップネス】 <http://tip.tipness.co.jp/> (2013.10.17 閲覧)